

2017.03.01：平成29年度 予算等審査特別委員会(第6日目) 本文

○菅原正和委員 私からは、第6款経済費第1項商工費中、観光客誘客宣伝事業費2億9066万円余、インバウンド推進事業費2億1850万円余の中から、中心部観光案内拠点等運営事業についてお聞きいたします。

東日本大震災の影響で観光客が伸び悩む東北六県の観光振興を支援するため、政府が2016年4月に総額32億7000万円の予算を計上し、東日本大震災による海外での風評被害の払拭とインバウンドの呼び込みを通じた被災地の復興を加速させるための東北観光復興対策交付金を創設しました。本市においても、交付金を活用し、台南市と連携したプロモーション、タイのドラマ撮影支援や外国人向け観光案内拠点の設置等の事業を展開してきております。プロモーションだけでなく、観光案内所等における外国人向け情報発信の強化、多言語案内サインの整備、Wi-Fi等インターネット利用環境の整備、地域交通のフリーパスのインバウンド対応、利用促進などに取り組む点は、大いに評価できるものがあります。

この交付金は、平成30年度までの交付になっております。2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えて、政府も2020年の訪日旅行者数の目標を4000万人としており、本市も交付金を最大限に活用しながら、インバウンドの推進に継続して取り組む必要があると感じます。特に外国人観光客は近年、団体旅行から個人、少人数での旅行形態に急速に移行してきており、またオリンピック・パラリンピックに向けて着実に増加する外国人観光客に対応する受け入れ環境の充実は、本市にとって喫緊の課題となっております。そこで、平成29年度以降どのように進めていくつもりなのか、確認も含めて数点質問をさせていただきます。

まず、平成29年度の東北観光復興対策交付金事業のうち、受け入れ環境整備や滞在コンテンツの充実、強化に関する主な事業と、事業費についてお示してください。

○誘客戦略推進課長 主な事業といたしましては、市内中心部で外国人向けの観光案内やまち歩きツアー等を実施する中心部観光案内拠点等運営事業が2726万円、仙台駅、仙台空港から宿泊施設へ手荷物を配送し、身軽な観光を支援する手ぶらで観光便サービス拡充事業が2197万円、外国人観光客から要望の強いクレジットカードの利用環境の拡大と観光消費の増加を目指す外国人観光客消費拡大キャンペーン事業が1000万円となっております。

○菅原正和委員 そこで、昨年12月に藤崎1階に設置した中心部観光案内所についてお伺いいたします。

中心部観光案内拠点等は、外国人の個人旅行化に伴い、市中心部で買い物をしていただくことを促す経済効果、さらに外国人が仙台で楽しんでもらうためのきめ細かいニーズに対し情報を提供する重要な施設だと思えます。どのような目的で設置したのか、また事業展開に当たりどこが請け負い、どんな事業内容を行っているのかお伺いいたします。

○誘客戦略推進課長 御指摘がありましたように、近年外国人観光客の方におかれましても個人や少人数で自由に行動しながら旅行を楽しむ方がふえていると、こういった状況をふまえて、市内の中心部の利便性の高い場所でさまざまな情報をタイムリーに提供するとともに、体験型イベント等の開催を通じて利便性と滞在時の満足度の向上を図ることを目的としてございます。

この事業は、市内中心部の8商店街振興組合等で構成いたします仙台市中心部商店街パートナーシップ準備協議会が、インバウンドベンチャー企業等と連携して運営を担っておりまして、外国人観光客への多言語での観光案内やまち歩きガイドツアー等を実施しているところでございます。

○菅原正和委員 それでは、昨年12月に開所してからこれまでの利用状況と、特に外国人の利用状況はどんなものだったのか、また利用者が必要としている情報はどんなものだったのかお伺いいたします。

○誘客戦略推進課長 昨年12月10日の開設から1月末までの52日間の統計でございますが、外国人166人を含む1,942人の方が御利用になっておられます。

また、相談内容につきましては、市内のお勧めの飲食店や免税店の場所、あるいは目的地までの交通手段などとなっております。

○菅原正和委員 案内所は、利用者が探しやすいというのが一つの条件になるかと思えます。この案内所は、藤崎の青葉通側に設置されており、私も何度か伺ってまいりました。確かに一ふる仙台バスの停留所側にありますが、初めて来訪する外国人にとっては場所がわかりにくいような感じがいたします。場所の広報など、外国人に対して的確な情報提供ができていのかどうか、さらに人通りが多い一番町側に場所を変更する等の考えはないものか、お伺いいたします。

○誘客戦略推進課長 現在設置しております場所は、青葉通一番町駅に直結した藤崎百貨店の中の総合案内カウンターの正面に位置してございまして、一ふる仙台のバス停に加えまして、新設されたタクシー乗り場、これらも目で確認できる場所でございます。

これまでの広報といたしましては、市のウェブサイトやSNSなどの情報発信に加えまして、海外の旅行博覧会やメディアの招請事業等でPRいたしましたほか、観光パンフレット等にも反映させてきてございます。引き続き利用者の方のニーズや要望等を踏まえまして、広報や設置場所のあり方について事業者のほうと協議してまいりたいと考えてございます。

○菅原正和委員 この観光案内拠点では、観光案内のほか仙台を知ってもらい、より楽しんでいただくために、まち歩き体験ツアーを実施していると伺いました。具体的にどのようなツアーを実施し、参加者の反応はどうだったのか、さらに平成29年度はどのように取り組むのかお伺いいたします。

○誘客戦略推進課長 今年度は伊達武将隊の甲冑体験、あるいは和装体験をしながらのまち歩き、横丁めぐり、名物の食べ歩きなどのガイドツアーを実施いたしました。参加された方からは英語での詳しい説明に対する高い評価をいただいた一方で、まち歩きの際に寒さ対策が必要だというような御意見もいただいたところでございます。

平成29年度につきましては、中心部商店街という立地環境を生かしまして、商店街や店舗の方々の御協力もいただきながら、例えばこけしの絵つけですとか、ミニチュア七夕づくりなど、気軽に体験できるメニューについても準備が整い次第追加いたしました。観光コンテンツの充実を図ってまいりたい、このように考えてございます。

○菅原正和委員 この事業について、本来だったら交付金が終了した以降はどうするのかということをお聞きしたかったんですけども、先ほど高橋卓誠委員のほうからその回答は得ていますので、それは割愛させていただきます。

次に、今年度は伊達政宗公生誕450年の年です。国内外から仙台を訪れる観光客も増加することが予想されます。観光客がまず目指すのが仙台城址です。伊達政宗公ゆかりとなると、仙台城、瑞鳳殿、仙台市博物館、大崎八幡神社などが主要な施設となります。それをつなぐのが市内を周遊する観光ループバス、るーぶる仙台です。毎日運行で、1周約70分、平日は20分間隔、土日祝日は15分間隔で運行しております。るーぶる仙台は、杜の都仙台の主な観光地を循環するシティループバス、仙台の観光にとってはなくてはならないものです。

しかし、ここで一つの問題があります。るーぶる仙台は1方向を循環する便しかございません。仙台城址を最初の目的とした人は、瑞鳳殿に戻る率は少ない傾向にあります。私は今回、仙台観光シティループバス運行協議会が出しているリーフレットを手にする機会がございました。るーぶる仙台を利用する際、幾つものモデルコースがありますが、このリーフレットの中に印刷してあるのは観光名所からショッピングまでの欲張りコースのモデルコースが印刷されております。中身を見ますと、仙台駅から乗車し、仙台城址見学、動物公園もしくはベニーランド、定禅寺通散策、メディアテーク見学、一番町で買い物、国分町で食事という順番になっております。瑞鳳殿は素通りで、見学の記載はございません。このほかにもおすすめのモデルコースがたくさん、ウェブでチェックしましょうという記載がありますが、QRコードが読み込めなければモデルコースに進むことはできません。伊達政宗公生誕450年という節目を考えれば、このリーフレットのモデルコースは伊達政宗公ゆかりのコースを印刷すべきではないでしょうか。地下鉄東西線開業にあわせ改訂したとお聞きしましたが、伊達政宗公ゆかりのコースに改訂することが必要と考えますが、御所見をお伺いいたします。

○観光課長 今年度使用しておりますリーフレットにおきましては、地下鉄東西線の開業に合わせて、るーぶる仙台と地下鉄を利用したモデルコースを掲載しております。次年度に向けたリーフレット改訂におきましては、政宗公生誕450年を記念いたしまして、瑞鳳殿を含めた政宗公ゆかりの観光スポットをめぐるモデルコースを掲載する予定で進めておりまして、今後戦略的に取り組んでまいりたいと考えております。

○菅原正和委員　できましたらそのようによろしくお願い申し上げます。

る一ふる仙台には16のバス停があります。各バス停の乗降人数を昨年8月から11月まで調べてみますと、一番人気の仙台城址での乗降人数は全体の27%、二番目人気の瑞鳳殿前は約18.7%と、単純に比較しても約8%の差があります。仙台城址を最初の目的地と決めている人が、仙台城址を見学して瑞鳳殿のことを知り、戻りたいと思っても、る一ふる仙台の路線では戻ることはなかなか難しいものがあります。る一ふる仙台で戻るとしたら、1周70分かけて戻るしかないのです。

そこで提案ですが、る一ふる仙台の周遊ルートの右回り、左回りとどちらでも周遊可能な路線にすることも必要ではないでしょうか。土日は仙台城址周辺の道路は一方通行であるという話はお聞きしております。安全面でも諸課題があるとお聞きしましたが、答弁でありがちなできないものの理由を並べるのではなく、民間の発想で問題を解決するためにどう課題に向き合い、対処策を考えていくべきかを前向きに検討することも必要ではないでしょうか。御所見をお伺いいたします。

○観光課長　る一ふる仙台の運行ルートの一部であります仙台城脇櫓から仙台城跡へ向かう市道仙台城跡線につきましては、御指摘のとおり4月から10月末までの観光シーズン中の土日祝日は八木山方面への一方通行の規制があることに加えまして、急勾配、急カーブが続くことから、お客様の安全面を考慮いたしまして、上りのみの運行としております。

また、逆ルートの運行を加えた場合、運転手の増員、また車両の増車など、大幅な運行体制の見直しが必要となると考えておりまして、実現には課題が多いものと考えております。

○菅原正和委員　増便しなくても、片方の便を左回りにしてしまえば、待ち時間は多少多いかもしれませんが、そういうことも可能ではないでしょうか。いかがでしょう。

○観光課長　先ほど申し上げましたとおり、運行計画の中で今る一ふる仙台の車両は限られておりますので、逆方向を運行いたしますとその分今までのルートの待ち時間がやはり多くなるといった課題もありますので、そこら辺の条件などで諸課題があるというふうに認識しております。

○菅原正和委員　では、次の質問に移ります。

仙台城址と瑞鳳殿、仙台市博物館は、いわばトライアングルのゴールデンルートだと私は考えております。ここに新たな乗降手段を考えることも必要ではないでしょうか。それに伴い、仙台まるごとパス等の交通フリーパスについても、外国人が使いやすい体系に変えていくことも必要ではないでしょうか。御所見をお伺いいたします。

○文化観光局長　仙台城跡、瑞鳳殿、それから仙台市博物館でございますけれども、ここはる一ふる仙台の周遊ルートの中でも特に人気のある観光施設でございます。まち歩きブームといった観点からも、石垣、それから脇櫓、大橋など、政宗公に思いをはせながら三つの名所を

楽しんでいただけますように、まち歩きマップなどでルートの御紹介をしたりですとか、あるいは東西線への乗りかえ等によるアクセス方法の案内を追加するですとか、そういったような形で工夫を図ってまいりたいと考えております。

また、仙台まるごとパスにつきましては、より外国人の使い勝手のよいサービス内容とするために、訪日外国人観光客に限定した新たなフリーパスの導入といったことも現在進めているところでございます。

○菅原正和委員 インバウンドを推進していくためには、交通体系の見直しや観光案内所の継続は重要なものと私は感じております。今後ますます利用者の認知度も増加してくると思うし、中心部の経済活性化のためにも施設の継続を検討することが必要であると述べさせていただきまして、私の質問を終わらせていただきます。